

2024. 1.10

報道関係者 各位

<配信枚数 3 枚>

**【立命館土曜講座のご案内】**

**■ 2024 年 2 月 テーマ ■**

「埋められた歴史に光を---旧日本軍朝鮮人軍人軍属問題の意味するもの」

「地域における健康課題（公衆衛生学的知見から）」

開催日程：2024 年 2 月 3 日（土）・17 日（土）・24 日（土）

2024 年 2 月の立命館土曜講座は、コア研究センターの企画として「埋められた歴史に光を---旧日本軍朝鮮人軍人軍属問題の意味するもの」、地域健康社会学研究センターの企画として「地域における健康課題（公衆衛生学的知見から）」をテーマに開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

**■ 2 月 テーマ「埋められた歴史に光を---旧日本軍朝鮮人軍人軍属問題の意味するもの」**

埋められた歴史・旧日本軍朝鮮人軍人軍属とその慰霊

日時：2024 年 2 月 3 日（土）10:00～11:30

開催方法：オンライン講座（Zoom ウェビナー）

**■ 2 月 テーマ「地域における健康課題（公衆衛生学的知見から）」**

(1) 福島の健康課題：2 型糖尿病に対する産官学連携による取り組み

日時：2024 年 2 月 17 日（土）10:00～11:30

開催方法：ハイブリッド開催 会場：末川記念会館 + Zoom ウェビナー

(2) データに基づく公衆衛生対応

日時：2024 年 2 月 24 日（土）10:00～11:30

開催方法：ハイブリッド開催 会場：末川記念会館 + Zoom ウェビナー

開催方法：オンライン講座（Zoom ウェビナー）、ハイブリッド講座（対面・Zoom ウェビナー）

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：衣笠キャンパス末川記念会館 180 人、Zoom ウェビナー 400 人

※実施前日 12:00 までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeikan.ac.jp/doyo/>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

● 内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当：武田・堀

TEL.075-465-8224

## 別紙

### ■立命館土曜講座 2月テーマ

「埋められた歴史に光を---旧日本軍朝鮮人軍人軍属問題の意味するもの」

埋められた歴史・旧日本軍朝鮮人軍人軍属とその慰霊

日時：2024年2月3日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学 名誉教授(元 立命館大学 学長) 川口 清史

講師による内容紹介：

日韓関係は慰安婦、徴用工など強制動員への補償と謝罪をめぐる緊張した問題がつづいています。強制動員には旧日本軍の朝鮮半島出身者の軍人軍属もありますが、問題は日本で知られていないばかりか韓国でも大きな社会問題とはなっていません。それはそのごく少数に旧日本軍の将校・下士官がおり、日本の植民地支配の協力者とみられているためです。しかし、24万人から37万人と発表されているその大半は社会的な強制を伴う「志願」兵、徴兵です。彼らはアジア太平洋全域での無謀な戦闘に狩り出され、2万数千人とされる死者をだしました。援護法での国籍条項その後の「日韓基本条約」による補償からの排除、BC級戦犯、シベリア抑留、何の補償もなく路頭に放り出された傷痍軍人など多くの問題がありました。朝鮮半島出身戦没者はだれが慰霊しているのでしょうか。靖国神社の慰霊に彼らは納得しているのでしょうか。厚生労働省が保管する1135柱の遺骨の返還はどうなっているのでしょうか。戦後80年を迎えるのに返還の見通しはあるのでしょうか。多くのそして大きな問題を孕んでいます。この負の歴史を共に知ることから日韓の未来が進んでいくのではないのでしょうか。

### ■立命館土曜講座 2月テーマ「地域における健康課題(公衆衛生学的知見から)」

(1)福島県の健康課題:2型糖尿病に対する産官学連携による取り組み

日時：2024年2月17日(土) 10:00~11:30

講師：福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座 講師 日高 友郎

講師による内容紹介：

福島県における健康課題の一つは、2型糖尿病対策です。糖尿病を治療せずに放置すると手足の痺れや壊疽、視力低下や失明、そして腎臓の働きが低下することによる透析治療の開始など、重大な合併症を招いてしまいます。

患者の多くは職場や地域で受けた健康診断がきっかけとなって、糖尿病に気づき、病院での治療を開始します。ところが、糖尿病になったからと言ってすぐに症状・合併症が出るわけではないため、治療の必要性を感じるのが難しくなり、途中で通院をやめてしまうケースもあります。

患者の継続治療を支えるためには、本人の「意志の強さ」のような属性も大切ですが、それに加え、病院へのアクセスや仕事と治療の両立などの環境整備が大切になります。その実現のためには、病院などの医療の場を飛び出して、地域の行政や住民、さらには企業とも協力し合いながら、糖尿病改善に取り組むことが必要です。

本講義では、①現在の日本における2型糖尿病の状況、②福島県郡山市で実施されている産官学連携による糖尿病対策プロジェクトの成果(患者へのアンケートとインタビューの併用)、③地域の中で自律的に健康を高めていくことの大切さ、をお伝えします。

## (2) データに基づく公衆衛生対応

日時：2024年2月24日(土) 10:00～11:30

講師：滋賀県健康医療福祉部 健康危機管理課 井上 英耶

講師による内容紹介：

滋賀県では証拠(データ等)に基づく政策立案である EBPM(Evidence Based Policy Making)を活用しながら、健康寿命の延伸に向けた政策立案や感染症対策といった公衆衛生対応を行っております。政策立案においては、全国の様々な統計データを基に滋賀県の平均寿命が全国1位である要因を探り、健康寿命延伸に向けた「健康なひとづくり」、「健康なまちづくり」を進めています。

また、感染症対策においては平時からの感染症発生情報の分析・評価を行いながら、クラスター発生時には現場に行き、分析・評価を行い得た知見を基に感染拡大防止策を施設の方と考えながら進めてきました。

本講義において私の経験を交えながら政策立案の事例や日常生活における感染症情報の見方や考え方等データに基づく公衆衛生対応についてお話しできればと思います。

本講義を通して、データ等の証拠がどのように公衆衛生対応に結びついているのか、を知っていただければと思います。

### ■立命館土曜講座

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> <https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>